

第3章 わたらせ溪谷鉄道（間藤＝桐生）

第312回目と第313回目のウォーキングは、平成23年10月8日（土）～9日（日）、わたらせ溪谷鉄道（44.1km）に挑戦する。本来ならば10月8日（土）～10日（月）の3連休を利用し、中央本線の延長上にある松本＝長野の約62kmに挑戦を予定していたが、生憎、長野・松本の東横インが満室。今回の敗因は、電話の予約タイミングが非常に遅く、10月6日（木）であったことだろう。せめて4日（火）位にしていれば予約できただろう。非常に勉強になった。それで、急遽代用コースを小諸・軽井沢・横川エリアを思いつき、高崎・上田の東横インに予約の電話をしたがこれもNGであった。この満室状況を受け一瞬日帰りの予定を変更しよう考えたが、3連休は好天の予報なので日帰り歩きにはもったいなく、色々考えた結果、わたらせ溪谷鉄道の踏破を思いつく。それで、桐生東横インに予約を入れる。結果はOK。



第1節 1日目：10月8日（土）：間藤～神戸 晴れ

間藤(10:57)～足尾(11:28)～通洞(11:43)～原向(12:48)～
沢入(14:35)～神戸(17:15)

2011年10月8日（土）、昨日は飲み会に関わらず、3時半に起床。そして、自宅を5時過ぎに出て、以下の電車で終点間藤（まとう）を目指す。

南林間 5時30分 → 新宿 6時17分 （小田急）

新宿 6時28分 → 赤羽 6時45分 （埼京線）

赤羽 6時58分 → 小山 7時51分 (東北本線)

小山 7時57分 → 桐生 8時55分 (両毛線)

桐生 9時30分 → 間藤 10時57分 (わたらせ渓谷鉄道)

昨日の飲み疲れで、新宿から小山まではうとうとする。南林間から桐生までは、既に踏破した区間であり充実感に慕って眠気が倍増したのかも知れない。小山駅で両毛線に乗り継ぐのに、2百m位の歩きを要することを思い出す。乗り継ぎ時間が6分しかないので、急ぎ足で8番ホームへと向う。8番ホームには高崎行きの電車が待っていた。車両は高校生で満席であった。桐生まで懐かしい駅名が続く。思川、栃木、大平下、岩舟、佐野、富田、足利、山前、小俣と。栃木で高校生が沢山下車のため座れる。両毛線ではナンバープレースを楽しむ。あっという間に1時間が過ぎ去る。桐生で30分余りに時間を利用し、桐生駅構内のうどんそば屋で、好物のかき揚げそばを食べる。スイカで桐生駅までの精算を済ませ、間藤までの切符(1,080円)を購入。



桐生駅



9時17分頃、茶色の2両編成のわたらせ渓谷鉄道がやって来る。運転手以外に神戸(ごうど)まで男女の2名の乗務員がいた。女性の乗務員は赤色の制服をきていた。大間々から神戸までわたらせ渓谷鉄道が力点にしていることが理解できた。渡良瀬川

に沿いながら風光明媚な山間を通り、終点間藤に向う。東武鉄道と合流する相老駅（あいおい）駅で沢山の乗客が乗車してき、車内は満席状態となる。大間々神戸で離合等のため、暫く停車する。神戸駅で2名の乗務員が下車し、その駅から運転手のみのワンマンカーとなる。神戸駅でかなりの乗客が下車する。神戸から沢入（そうり）にかけて5,242mのトンネルとなる。原向駅（はらむこう）近郊で運転手からの風景の説明がある。その説明を受け、沢山の乗客がカメラをフル回転させていた。足尾銅山観光に関する通洞駅（つうどう）で、神戸駅に引き続きかなりの乗客が下車する。終点の間藤までの乗客は十数人であった。このメンバーの大半は乗り鉄または撮り鉄であったような気がする。私のようにわたらせ渓谷鉄道に沿って歩くような乗客は誰もいなかったような気がする。



車内



宝石のような石



間藤駅



山小屋風の間藤駅には10時57分に到着後、駅前の風景をデジカメに収めて、11時2分、足尾駅を目指して出発。鹿等を描いた絵化粧室前に展示されていた。11時8分、宇賀神製作所があった。暫くは鉄道に直ぐ右側を歩く。11時12分、渡良瀬川を渡り、鉄道の左側を歩く。かつての足尾銅山に縁のある民家が広がっていた。本日の鉄道は非

電化のため電柱がないため、鉄道歩きに骨が折れることが予想された。この苦い経験は八高線でしたからである。11時24分、鉾都足尾の迎賓館「古河掛水倶楽部」前を追加。



渡良瀬川を渡る



足尾駅

車庫をもつ足尾駅には11時28分到着。駅前には観光マップが掲載されていた。通洞＝足尾＝間藤を結ぶ1両編成の電車と対面する。通洞駅には11時43分に到着。駅前には数台のタクシーが停車していた。駅前には足尾の四季(青山 勇氏)の掲示があった。近くには足尾歴史館や足尾銅山観光があった。11時58分、日光市営バス停砂畑入口前で12時のサイレンを聞く。今は廃墟の感じであるが、かつては立派であったと思われる建物があった。足尾銅山観光の職人風のデザインは心に強く残った。



通洞駅



12時10分、足尾鎮守磐裂神社入口前を通過。12時16分、古河電子(株)いわき工場前で行き止まりとなり、幹線道路に戻る。12時23分、遠下(とおじも)交差点を通過。国道122号の上をわたらせ溪谷鉄道を交差して行く。すなわち、これから鉄道の左側を歩くことなる。この交差点は銅(あかがね)・庚申(こうしん)アンダーとあった。この地点から、桐生40km、大間々34kmと道路標識で記されていた。12時31分、

庚申川を跨る切幹（きりみき）橋を渡る。



原橋



原向駅

本日は沢山の橋を渡ることとなる。12時42分、102歩ある空色の原橋を渡り、渡良瀬川の左側となる。時間の関係で原向駅近いと思ったからである。予想通り、原向駅（12時48分）があった。無人駅であった。トンボを本日は多々見かける。この近くには熊が出現するので注意の看板があった。暫く鉄道に沿って歩くが、行き止まりとなる。歩道は湧き水で寸断されていた。その向うには小道が続いていたが、地図を確認し、先程の原橋（13時1分）に戻り、国道122号を歩くことにする。13時15分、140歩ある唐風呂（から）橋を渡る。この橋の手すりには野生の鹿の像が記されていた。間藤に引き続き2度目である。13時20分、全長483mある足尾トンネル（802歩）を通過。13時40分、ここが群馬県と記載された833歩ある沢入トンネルを通過する。



足尾トンネル



春場石庭公園

13時55分、77歩ある楡沢橋を通過。その先に川が階段式の春場石庭公園があった。14時15分、サンレイク草木（国民宿舎：6.5km先）の看板前を通過。14時29分、166

歩ある沢入橋を渡る。14時35分、踏み切りを横切り、山小屋風の駅舎をもつ沢入駅に到着。



沢入駅 陶器と良寛書の館

みどり市の「童謡の里」を強くPRした兎と亀の彫刻がある。これかこのポスターを多々目にする。駅から少し行った先に「陶器と良寛書の館」があった。立ち寄ることも考えたが、時間の関係でカットする。これから県道343号線（沢入桐生線）を歩く。すなわち、神戸駅まで鉄道の左側、渡良瀬川の左側を歩くことにする。後で聞いたところによると、この近郊は熊が出現するエリアとのことであった。14時41分、見沢向橋（黒坂石川）を通過。14時45分、左側に鉄道のトンネルがあった。14時51分、頭上を電車が通過して行く。電車は渡良瀬川を渡り、向こう岸の山（トンネル）に隠れる。緑色の鉄橋だった。14時59分、渡良瀬川に跨る橋が登場。しかし、渡らず県道343号線を直進する。15時3分、東宮公園前を通過。道路から草木湖が見えて来る。15時30分、赤色の草木橋にやって来る。ここでも橋を渡ろうとも考えたが断念し直進する。15時40分、神戸駅と国民宿舎を結ぶ路面バスと対面する。15時43分、民家前を通過。この民家は沢入駅以来であった。すなわち、14時50分頃通行人に出会って以来、山間で人気は全くなかった。この通行人の方から、「343号線を直進すれば神戸駅に行ける」との確認を得た。それで山間で不安は多々あったが、しかも遠回りがあったが、敢えて車の少ない自然がある静寂な道に挑戦したわけである。15時49分、サンレイク草木前を通過。3連休のためか、駐車場は満席の状況であった。途中、数台の車が私を追い越していった。



神戸駅への路

15時57分、横川橋を通過。16時、前方（50m位）に一頭の野生の鹿を見つける。一瞬熊かと思ひ、ひやっとする。数秒こちらを見て、森の方に消えて行く。16時9分、前方草木湖向うに鉄道を見つけ、少し安堵する。16時28分、工事中的人と対面する。神戸までの道筋をお尋ねする。「直進しダムを降りた先にあります」との応対がある。そのあと、「リュックが開いていますよ」との助言がある。胸を撫で下ろす。大阪以来である。リュックの閉め方を勉強させてもらった。16時37分、草木ダムに到着。



草木橋



草木ダム

ここから誤って、ダム下への路が正解にもかかわらず橋をわたる。誤って計測に失敗。国道122号に出る。16時45分、兎と亀の入った「スポーツと童謡の里」の看板を見つける。16時53分、神戸駅への案内板を見つける。民家の人に聞いて、やっと神戸駅には17時15分到着。道路から20m位下りたところに神戸駅があった。予想以上にこの駅が閑散としているのに驚いた。



神戸駅



神戸駅には、数人の自転車野郎が17時43分の電車を待っていた。富弘美術館の看板と列車のレストラン「清流」が目にとまる。桐生まで780円要する。17時43分の電車は1両編成で、車内は満席の状態であった。相老駅で多数の乗客が下車する。18時40分に桐生駅に到着。桐生東横イン（409号室）には、18時53分到着。らーめん頭山満（とうさんまん）で夕食。クラブ活動を終え、腹ごしらえをする高校生で一杯だった。デイリーヤマザキ（桐生駅南口）で夜食を購入。本日の営業キロは17.7km、万歩計は46,619歩だった。沢村が中日相手に完封勝利（10勝11敗）し、本日の歩きに花を添えてくれる。充実した一日であった。明日の作戦を考え就寝する。



朝の桐生駅



桐生東横イン

第2節 2日目：10月9日（日）：神戸～桐生 晴れ

神戸(8:57)～小中(?)～中野(10:21)～花輪(10:39)～水沼(11:48)～
本宿(13:11)～上神梅(13:40)～大間々(14:55(～運動公園(15:51)～
相老(あいおい、16:33)～下新田(16:53)～桐生(17:48)

10月9日（日）、3時半頃目が覚める。5時に起床し、ロビーでIpodを充電する。6時に部屋に戻り、本日の仕度をする。朝食を済ませ、7時37分ホテルをチェックアウトする。昨日のらーめん頭山満の店や桐生駅前をデジカメに収める。桐生駅発8時8分の列車で神戸駅に向う。



本日の車両は1両編成であった。赤い制服を着た女性乗務員が1名いて、車内サービスをしていた。神戸駅には8時57分に到着。神戸駅を下りるや否や、定期バスがやって来る。朝の神戸駅を写真に収め、小中駅（こなか）を目指す。



朝の神戸駅



昨日の階段を上る。鉄道に沿った路を歩こうとするが行き止まりとなる。幹線道路である国道 122 号線に出る。9 時 11 分、あずま小学校前を通過。9 時 21 分、東京農工大フルドミュージアム前を通過。9 時 27 分、滝の沢橋通過。9 時 30 分、境之沢橋通過。少し先に小中駅への道路があったが、少し近くまで行き引き返す。後で考えたのであるが、恐らくこの先に小中駅があったと思われる。9 時 42 分、86 歩ある小中橋（小中川）を通過。9 時 46 分、水車前を通過。ここで小中駅がクリアできないことに気づく。10 時 9 分、御霊橋を通過。その先に中野駅への案内板を見つけ安堵する。花輪駅への道筋の道路標識があった。



小中橋



中野駅

無人駅の中野駅には 10 時 21 分到着。この駅にもトイレの施設があった。これまでどの駅にもトイレの設備があるのに驚いた。加えて、トイレは清掃がなされていた。10 時 28 分、鉄道を横切り左側に出る。今歩いて道はあかがね街道とあった。花輪宿と表示がある花輪駅には 10 時 39 分に到着。



花輪駅

10時46分、鉄道を横切り右側となる。10時55分、鉄道を横切り左側となる。県道を歩く。11時9分、荻原街道踏切を横切り鉄道の右側を歩く。ここから、鉄道に沿った静かな道路を歩くこととなる。11時13分、小黒川（70歩）を境にみどり市から桐生市となる。11時25分、国道122号と合流。11時28分、桐生18km、大間々11kmの看板を見つける。11時41分、駅の温泉「水沼駅温泉センター」の看板と対面し、水沼駅近いことを感じる。同時に民家が多く見えて来る。温泉に直結した水沼駅には11時48分到着。係員が温泉への誘導をしていた。駅から少し先に早房橋があった。そして早房新橋と続く。渡良瀬川の溪流がとてもすがすがしさを感じた。橋津久瀬手前で12時のサイレンを聞く。12時4分、桐生16km、大間々9kmの道路標識と対面。12時12分、デイリーヤマザキ（桐生黒俣根店）で特濃ミルクを購入。そしてその隣にある「道の駅（くろほねやまびこ）の特産物直売所」で昼食を摂る。沢山の人がおり、20分位待ち時間を要する。名物の野菜天ぷらざるうどんを賞味する。家庭の味がして強く印象に残った。



水沼駅





12時58分、城下トンネルを通過する。トンネルを出ると、城下橋（川口川）だった。13時7分、桐生14km、大間々7kmの道路標識の手前で、本宿駅（もとじゆく）入口とあった。ややもすると先だと思うが、丁度その下に本宿駅（13時11分）があった。この駅の標高は210mとあった。神戸駅と同じように20m位階段を下りたところにあった。13時21分、再度「桐生市」から「みどり市」となる。この近郊に深沢橋（深沢川）があり、道路下で渡良瀬川に沿った鉄道が急カーブする地形をしていた。



本宿駅

13時40分、風格のある駅舎をもつ上神梅駅（かみかんばい）に到着。駅舎内には小学生の絵が展示されていた。13時51分、「電話でバスのりば」を通過。この近郊に旧銅山街道があった。道路向うに1頭の放し飼いの犬に吠えられる。「思わず車に注意なさい」と声をかける。14歳の愛犬セブンのお陰かも知れない。



上神梅駅



14時27分、上桐原交差点でT字路となる。ここから急に山間から町並みと風景が変化する。太田23km、桐生8kmの道路標識を見つける。14時43分、百円ショップのダイソーを通過。車庫をもつ大間々駅には14時55分到着。駅前には以前に踏破した東武鉄道の赤城駅への案内があった。15時6分、群馬銀行前を通過。15時15分、右手に東武鉄道の電車と対面。この近郊は東武桐生線の踏破の際に来たことがあるので懐かしくなる。15時20分、桐生市となる。老齢の桜並木が続く。道路下にはわたらせ線があった。上毛電鉄の桐生球場前駅とわ鉄の運動公園駅を混同した関係で、運動公園駅への道筋を少し誤る。数人の通行人に聞いてやっと運動公園駅(15時51分)に到着する。近くに桐生球場前駅への案内板を見つける。この近郊は上毛電鉄踏破の際立ち寄った。



大間々駅



運動公園駅

ここから相老駅への道筋迷路に入る。東武桐生線踏破の際、赤城駅から相老駅までの間で、本日踏破している、わたらせ渓谷鉄道か絡み迷った体験をした。今回も残念であ

るが、その再現となる。15時56分、JR線下を潜る。そして東武鉄道桐第86号踏切を越え、誤って太田方面に行こうとする。数年前の経験から何となく可笑しいと感じ、通行人に聞こうとするが見当たらず。止むを得ず、オートバイに乗った女性に「相老駅への道筋」を聞くが、明確な回答がもらえず。しかし、感じとしては反対の方向に向っている感じであった。今度はぶどう直販の店でも聞くが、明確な回答がもらえず。お二人の話から自分が反対方向に進んでいることは間違いなかった。それで先程の踏切を横切った先で、犬を散歩させている女性に聞いてみるが、明確な回答が得られず。近くにいた男性に聞いてやっと相老駅への道筋がわかる。



16時18分、わ鉄の踏切を越え、鉄道の左側となる。16時23分、相老駅への案内板を見つけ安堵する。相老駅には16時33分到着。駅員さんに桐生への道筋をお尋ねする。私の思う方向で安堵する。暫く東武桐生線とわ鉄が並走する。途中でJRが入り込んで来て混乱しそうになる。16時42分、わ鉄を横切り鉄道の右側となる。そして、16時51分、再度踏切を横切り鉄道の左側となる。お孫さんの遊んでいる通行人に聞いてよかった。危うくここでも誤った道筋に行こうとしていたからだ。踏切を横切り、鉄道に沿って歩いた先に下新田駅（しもしんでん）があった。16時53分の到着だった。丁度下りの電車（間藤行き）がやって来る。



下新田駅



17時11分、JR線下を潜り、終点の桐生駅を目指す。しかし、ここでも方向性を誤り、渡良瀬川に沿って歩くことになる。JR線下に来て、自分が誤って進んでいることに気づく。この近郊も東武桐生線踏破の際誤って来たような気がした。それで引き返す。念のため犬を散歩させて通行人に聞き、正式に軌道修正する。17時22分、629歩ある桐生大橋（渡良瀬川）を渡る。辺りは相当暗くなる。数人の人に聞いて、桐生駅には17時48分に到着。後の祭りであるが、青いネオンの桐生東横インが目印となった。わたらせ渓谷鉄道物産店で、桐生名物の花ぼんとうと味噌ぼんとうをお土産に購入する。



下新田駅



桐生駅

18時の小山行きに乗り自宅に向かう。南林間から雨に遭うが、門口さんから頂戴したリュックカーバーが始めて威力を発揮してくれた。感謝の限りである。自宅には22時5分到着。本日の営業キロは26.4km、万歩計は59,760歩だった。二日間で予定通り、わたらせ渓谷鉄道44.1kmを踏破でき満足のできるシリーズであった。わたらせ渓谷の魅力が多々感じる旅行であった。また機会があれば、今度は観光の目的で訪問したい。



桐生名物